

行政評価シート（事務事業評価）		評価年度	3年度
事業名	美術館管理運営事業	担当課	教育課
事業内容(簡潔に)	韮崎大村美術館の施設の維持管理と収蔵品を安全に管理し、運営する事業		

1 計画(PLAN):事務事業の計画的位置づけ

第7次総合計画での目的体系	基本方向	魅力あふれるまちづくり	
	政策	次世代につなぐ歴史・文化の醸成	
	施策	文化・芸術の振興	
関連する個別計画等	社会教育計画	根拠条例等	韮崎大村美術館条例

2 計画(PLAN):事務事業の概要

事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> 美術館の維持管理を適切に実施し、来館者が快適かつ安全に利用できるようにする。 優れた美術作品を展示公開し、市民の美術に対する理解を深め、芸術文化の振興を図る。 収蔵作品の整理とデータ化により、適切な作品管理と市民への情報提供を行う。
事業の手段	<ul style="list-style-type: none"> 常設展示では、上村松園、片岡球子、小倉遊亀等既に高い評価を得ている作家の作品を常時展示し、企画展示では年4回テーマを掲げ、それに沿った作品を展示している。 鈴木信太郎記念室では、文化功労者にも顕彰された鈴木信太郎の作品を展示。 展望室では、島岡達三をはじめとした人間国宝作家の作品や民芸運動作家のバーナード・リーチ等の陶器作品と山梨緑の作家の作品を展示。また同室からはハケ岳、富士山等の山々を望むことができる。 平成29年9月に大村智記念室を開室。2015年にノーベル生理学・医学賞を受賞した大村智博士の研究関係の資料や永年をかけて蒐集されてきた作品を展示。 学芸員が必要に応じて、作品の説明や鑑賞のポイントを解説している。
事業の対象	市民及び市外の来館者

3 実施(DO):投入費用及び従事職員の推移(インプット=費用+作業)

		30年度	元年度	2年度
財源内訳	A 事業費 (千円)	28,792	34,902	32,450
	国・県支出金			
	その他(使用料・借入金ほか)	7,231	5,173	1,682
	一般財源	21,561	29,729	30,768
B 担当職員数(職員E) (人)	1.06	1.06	1.06	
C 人件費(平均人件費×E) (千円)	7,273	7,118	6,969	
D 総事業費(A+C) (千円)	28,834	36,847	37,737	
主な事業費用の説明	施設管理費、非常勤職員人件費、常設展や企画展及び育成事業等の開催のための経費			

注)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した30年度(6,862千円)、元年度(6,715千円)、2年度(6,575千円)を使用しています。

4 実施(DO):事業を数字で分析(アウトプット=事業量)

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			30年度	元年度	2年度
活動指標	1 美術館入館者(サテライト含)(人)		28,322	28,675	8,074
	2 教育普及事業参加者数(人)		344	544	643
	3 ボランティア登録者数(人)		33	35	35
妥当性		<input type="checkbox"/> A 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない			
上記活動指標と妥当性の説明	1	令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大により4月～5月は臨時休館し、その後も入館を制限したことにより入館者数が減少している。			
	2	平成30年度より徐々にワークショップの開催数を増やし、また市内だけでなく市外の小中学校も芸術を学ぶ場としての来館されることが増え、幼稚園保育園については園児がのびのびと美術に触れることができるように休館日に事業を実施していることから教育普及参加者が増加している。			
	3	来館者対応をはじめ美術館周辺の清掃活動、イベントの補助や幸福の小径の立体作品に清掃などを行っていただいている。			

5 評価(CHECK): 事務事業評価 (アウトカム=成果・効果)

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			30年度	元年度	2年度
成果指標 もしくは まちづくり 指標	1	1日当たりの美術館入館者数(算出式数値)(人)	95.7 (296日)	96.5 (297日)	33.5 (241日)
	2	教育普及事業参加者(人)	49.1 (7回)	49.4 (11回)	46.0 (14回)
	3	ボランティア活動延べ人数(人)	328	271	63
成果		<input type="checkbox"/> A 上がっている <input type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input checked="" type="checkbox"/> C 上がっていない			
上記指標の妥当性と成果の内容説明	1	女性の文化勲章作家の作品や文化功労者として顕彰された作家の作品を数多く常設展示し、また、幅広い年齢層、多彩な技法による作品を季節等テーマに沿って展示する企画展を開催している。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止措置として4月～5月まで臨時休館とその後入館制限していたため、入館者数が減少している。			
	2	平成30年度から徐々に教育普及事業の開催回数を増やし、また毎年校外学習の場として当館を訪れる小中学校が増えていること、幼稚園保育園については園児たちがのびのびと作品鑑賞ができるように休館日に実施していることから、30年から元年には若干の増加がみられ、令和2年度もコロナ禍であっても大きな減少には至っておらず、事業回数は増加している。			
	3	令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、イベントの減少や美術館自体が臨時休館していた関係で活動人数が減少している。			

事務事業総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input checked="" type="checkbox"/> C 期待以下の達成
----------	--

6 改善(ACTION): 今後の事務事業の展開

今後の事業展開	<input type="checkbox"/> 拡大(コストを集中的に投入する) <input checked="" type="checkbox"/> 一部改善(事務的な改善を実施する) <input type="checkbox"/> 全部改善(内容・手段・コスト・実施主体等の見直しが必要) <input type="checkbox"/> 縮小(規模・内容を縮小、又は他の事業と統合する) <input type="checkbox"/> 廃止(廃止の検討が必要)			
事務事業の改善案	改善の概要・方向性(いつまでに、どういう形で具体化するのか)			
	令和3年度の改善計画(今後の事業展開説明)			
	<ul style="list-style-type: none"> ・ニコリの地下アートギャラリーを使った館外企画等を行い、美術館への入館者数増へ繋げる。 ・美術館マナーを知る事や館内探索、作品鑑賞等を通して美術館の楽しみ方を知り、地元にある美術館への親しみを深めてもらうため幼稚園・保育園を対象とした見学会を積極的に行う。 ・ワークショップを積極的に企画、実施することで芸術を鑑賞するだけでなく体験する機会を増やし、また美術館内ではスペースに限りがあるため、螢雪寮を積極的に使用することで、さらに実施可能な範囲が広がり、多くの方に芸術を身近に感じていただく機会とする。 ・令和2年度に実施した「おうち美術館」を今後も実施し、来館が難しい方々の芸術鑑賞の機会となるように進めていく。 			
過去の改善経過	改善の経過	<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年9月3日より、市民交流センター「ニコリ」内に葦崎大村美術館サテライトスペースを開館。 ・平成24年12月、事務室の増築。 ・平成26年度より、美術館の館長業務を補佐するため副館長職を設置。 ・平成28年4月より、駐車場に仮設トイレ設置や防犯灯の増設を行う。 ・平成29年9月、収蔵庫増築及び大村智記念室の開設。(開館10周年) ・平成30年、新収蔵庫連絡通路工事及び券売機、レジスターの導入。 ・令和2年 新型コロナウイルス感染防止のための休館中、動画投稿サイトを通じて企画展の作品を学芸員が紹介する「おうち美術館」を開催。 ・令和3年 4月に開館した大村家住宅(螢雪寮)でワークショップを開催。 		
		直近の評価結果	内部評価	令和元年度
	外部評価	年度	<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 全部改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止	
課長所見	改善案	<ul style="list-style-type: none"> ・ニコリの地下アートギャラリーを使った館外企画展を行い、美術館への入館者数増に繋げる ・美術館マナーを知る事や館内探索、作品鑑賞等を通して美術館の楽しみ方を知り、地元にある美術館への親しみを深めてもらうため、幼稚園・保育園を対象とした見学会を行う。 ・大村研究所へ収蔵品整理業務を委託し、2,000点を超える所蔵作品の整理・情報管理の一元化を推進する。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ポストコロナを見据え、新たな芸術鑑賞の機会提供の取組として行った「おうち美術館」の継続開催や企画展開催中の作家やゆかりの人物によるギャラリートークのオンライン配信など新たな生活様式を取り入れた試みにより、美術館の周知とファン層の拡大に繋げていく。 ・収蔵作品の整理事業の成果をデータベース化して一般向けに広く公開することにより、来館しなくても作品鑑賞が楽しめる機会の提供に努めていく。 ・近接する大村家住宅(螢雪寮)でのワークショップ等のイベント開催や美術館に来館する大手旅行会社ツアーへの組込を働きかけるなど周辺エリアを含めた地域活性化への取組を進めていく。 			